

更年期が終わりました。まだ子宮がん検診を受ける必要がありますか？

必要です。子宮頸がんのリスクは、年齢が上がるにつれ高くなります。性交渉を経験したことのある方は、例えその相手が一人だけであっても、また更年期が終わっていても、一年おきに子宮がん検診を受けることが大切です。

不正(普通とは異なる)出血がありました。

不正出血やおりものの異常がある場合、すぐに医師の診察を受けてください。

前回の子宮がん検診がいつだったか覚えていません

かかりつけの医師や診療所で、次回子宮がん検診の時期を通知するシステムがある場合があります。また州や準州ごとに子宮がん検診結果の記録が登録された記録簿があり、次回の子宮がん検診や関連した治療の時期を過ぎている人に通知が送られるようになっています。この記録簿に自分の情報を記録したくない人や、通知を受け取りたくない人は、かかりつけの医師にその旨伝えてください。

子宮がん検診はどこで受けられますか？

かかりつけの医師や看護師、お近くの家族計画クリニックなどで、子宮がん検診の予約をすることができます。女医や看護師に検診を行ってもらうよう要請することも可能です。検査時に通訳者に同席してもらいたければ、予約時にその旨伝えてください。友人や家族を連れていくこともできます。

子宮頸がんを防ぐ新ワクチンがあると聞いたのですが。

多くの子宮頸がんの原因とされるタイプのHPV(ヒトパピローマウイルス)に対し、感染を予防するワクチンが開発されています。このワクチンは、オーストラリアでは9歳から26歳までの女性への接種が認可されています。

全国予防接種プログラムでは、HPVワクチンの接種が無料で受けられます。

このワクチンは、性交渉をもち始める前の若い女性に接種するのが最適で、これからの世代において子宮頸がんを防ぐことを目的としています。

12歳から26歳までの方や、12歳から26歳までの年齢の娘がいる方は、このワクチンの接種についてかかりつけの医師に相談してください。

ただし、このワクチンが有効なのは子宮頸がんを引き起すタイプのHPVの一部に過ぎないため、通常の子宮がん検診も引き続き受けてください。

このワクチンは子宮頸がんを引き起すタイプのHPVをすべて予防するものではないため、通常の子宮がん検診も引き続き受けてください。

HPVや予防接種についての詳細は、オーストラリア予防接種プログラムのホームページ www.immunise.health.gov.au を参照してください。

子宮頸がんを予防する最善の手段は、子宮がん検診を一年おきに受けることです。

子宮がん検診を受けることに関する詳細の請求や、州や準州の子宮がん検査結果記録簿に記載された自分の情報を更新したり削除したりしたい場合は、**13 15 56**までお電話で連絡してください(電話料金は市内通話料金が適用されます)。

英語での意思疎通が困難な場合は、翻訳通訳サービス(電話 **13 14 50**)に連絡してください。電話料金は市内通話料金が適用されます。

ホームページの情報も参考にしてください。
www.cancerscreening.gov.au



前回子宮がん検診をいつ受けたか覚えていますか？

女性一人一人が一年おきに子宮がん検診を受ければ、ほとんどの子宮頸がんは防ぐことができます。

National Cervical Screening Program

A joint Australian, State and Territory Government Initiative

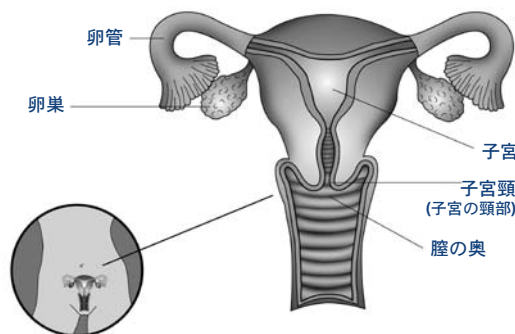
言い訳をしないで予約をしよう

子宮がん検診とはどんなものですか。

子宮がん検診では子宮頸への簡単な検査が行われ、それが健康な状態であるかどうかを確認します。子宮頸とは子宮の開口部で、膣の奥に位置します(下図参照)。

子宮がん検診は数分で終わり、痛みも伴いません。

子宮がん検診を一年おきに受けることが、子宮頸がんを予防する最善の方法です。



どうして子宮がん検診を受けるのですか。

子宮がん検診では子宮頸における癌の初期兆候を見つけることができます。子宮頸の細胞が健康な状態から不健康な(異常な)状態に変化することがあり、子宮がん検診を受けていれば、この異常な細胞が癌に進展する前に発見できます。

子宮頸がんは何が原因なのですか。

HPV(ヒトパピローマウィルス)というウィルスへの感染が、子宮頸がんのほとんどのケースの原因となっています。HPVには100以上の種類があり、このうちの2種類が、オーストラリアにおける子宮頸がんの大部分を誘発していることがわかっています。

HPVは非常に一般的に存在するウィルスで、ほとんどの人(5人のうち4人の割合)が一生涯のいつかの時点でHPVに感染します。一度でも性交渉を持ったことのある人は、HPVに感染している可能性があります。

ほとんどの場合、HPV感染は数年で自然治癒します。しかし体内に長く潜み、子宮頸がんを引き起す場合もあります。これには通常約10年の年月を要します。

子宮がん検診を一年おきに受けることにより、HPVにより誘発された細胞の変化が癌に進展する前に、これを発見することができます。異常が発見されたら、かかりつけの医師や看護師、その他の医療従事者がその人の健康状態を監視し、必要に応じて治療を行い、健康を維持できるようにします。

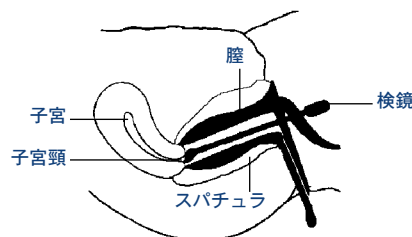
子宮がん検診は誰が受ける必要があるのですか。

一度でも性交渉を持ったことのある18歳から70歳までの女性は、すべて一年おきに子宮がん検診を受ける必要があります。配偶者以外と性交渉の経験がない人でも、子宮がん検診は定期的に受けておきましょう。

子宮摘出手術を受けた人でも検診は必要ですか。

子宮摘出手術の種類によっては、子宮がん検診を受ける必要がある場合があります。何が最善であるかをおかかりの医師や看護師、医療従事者に相談してください。

子宮がん検診はどのように行われますか。



子宮がん検診の内容

まずウエストから下につけている衣類を脱ぎ、仰向けに横たわるよう医師に指示されます。女医をリクエストすることも可能です。医師は検鏡(医療器具)を使って膣を開き、子宮頸がよく見えるようにします。

小さいブラシやスパチュラ(プラスチックや木製のヘラ)を使い、子宮頸の細胞を採取します。採取した細胞はスライドガラスに固定されて検査機関に送られ、顕微鏡で観察されます。

子宮がん検診はどんな感じですか。

子宮がん検診を受けることを恥ずかしがる人もいますが、検診を行う人にとっては毎日の仕事の一部に過ぎず、恥ずかしいという気持ちも持っていないことを覚えておいてください。

検診自体は少し変な感じはするかもしれませんが、痛みはありません。痛みを感じたら、医師や看護師、医療従事者にその場で伝えてください。

結果はどうなりますか。

子宮がん検診を受ける際は、結果がいつ、どのようにして通知されるのかを医師に確認しておくことが大切です。

ほとんどの場合、結果は正常です

結果が正常でなかったらどうなりますか。

結果が正常でなくても、ガンであることを意味するものではありません。多くの場合、自然に治癒する感染症にかかっている等、単純な理由によるものです。

子宮がん検診の頻度を増やす必要がある場合もあります。異常細胞の中には専門医の治療を要するものがありますから、何が最善であるかを医師や看護師、医療従事者に確認してください。